

市場価格

ドル建て ドル/TOZ

Platinum	Price	Date
Open	940.00	2022/10/24
High	969.86	2022/10/28
Low	908.50	2022/10/25
Close	948.51	2022/10/28

円建て 円/グラム

Platinum	Price	Date
Open	4476.00	2022/10/24
High	4536.00	2022/10/28
Low	4347.00	2022/10/25
Close	4496.00	2022/10/28

ドル建て ドル/TOZ

Palladium	Price	Date
Open	2023.50	2022/10/24
High	2078.49	2022/10/24
Low	1891.80	2022/10/28
Close	1905.00	2022/10/28

円建て 円/グラム

Palladium	Price	Date
Open	9724.00	2022/10/24
High	9950.00	2022/10/24
Low	8975.00	2022/10/28
Close	9030.00	2022/10/28



ニュースエクスプレス

消費者の新車需要が減り、パラジウム需要の伸びが鈍化

石油産業のプラチナ需要は、コロナ禍で世界各国の多くの石油精製所が閉鎖されたために大幅に減退していたが、2022年は回復に転じた。2020年から2022年半ばまでの精製所閉鎖による減産は世界で380万バレル/日（うち欧州は80万バレル/日）となった一方で、石油の需要は一日560万バレル増えている。（出典:国際エネルギーフォーラム）

石油精製所の多くの閉鎖は予測されていたものだが、5年を超える期間での動きと見られていた。

石油産業のプラチナ需要は、2022年は触媒再生のための補充と新たな工場の需要とで、5.6トンという予測だが、2023年は、コロナ禍の影響が長引き、ロシアとウクライナ間の紛争で石油精製の減産が予測されるため、欧州でさらに多くの石油精製所が閉鎖され、前年比で25%以上減って4.0トンとなる予測。欧州の石油需要も2022年の1430万バレル/日から、2023年は経済成長の鈍化により前年より減って、1419万バレル/日となるとされる（出典:国際エネルギー機関）。

今後石油精製能力は、精製所の低い稼働率や閉鎖でさらに低くなる可能性がある。欧州委員会は12月5日より海上運輸によるロシア産原油の輸入禁止、さらに2023年2月からは石油精製品の輸入禁止を実行する予定で、そのため欧州圏内でロシア産燃料に依存する精製所は操業のための燃料が入手できなくなる。ロシア国内の精製所は2月から欧州に輸出できなくなるが、国内の貯蔵施設にも限界があることから減産に踏み切り、全体でプラチナ需要が減るかもしれない。ロシアからパイプラインによる燃料輸入に依存している、内陸の精製所は陸路以外の燃料入手には限界がある上、コストもかかることから、海岸部にある精製所よりも大きな打撃を受けるだろう。ロシアのウクライナ軍事侵襲以前の欧州連合各国は燃料輸入の半分以上をロシアからの輸入に依存していたため（出典:国際エネルギー機関）、ロシア産原油が止まれば精製所の稼働率はさらに下がるだろう。

2023年のプラチナ市場は15.6トン以上の余剰と予測されており、プラチナ価格は低迷する可能性が高い。精製所の閉鎖が増えれば市場に戻るプラチナがさらに増え、余剰が増えて価格上昇の可能性を抑え込んでしまうリスクがある。

プラチナ

プラチナ価格はランド安にもかかわらず高止まり。

プラチナ価格と南アフリカ通貨のランドは長期に渡り強い負の相関関係がある。つまり、ランド高になるとプラチナ価格の上昇がみられた。しかし8月末からプラチナ価格は 9.1% 上昇して921ドル/オンスとなっているが、ランドは1ドル 17.11 ランドから6.1%下がって18.16 ランドとなっている。これまでの傾向に戻るにはプラチナ価格が下がるか、あるいはランドが対ドルで上がらなければならない。

米ドルとランドの外為先物取引はネットロング（さらなるランド安を予測）であることから、直近ではランド安の可能性の方が高く、つまりプラチナ価格が下がることを示唆している。プラチナ市場は現在余剰で価格は弱含みとなることを考えると、マーケットのファンダメンタルズもこちら（プラチナ価格の下落）に向かっているようである。

https://www.heraeus.com/media/media/hpm/doc_hpm/precious_metal_update/en_6/Appraisal_20221024.pdf#msdyntrid=9Gi2teyrPgCGJlfP5ZkZQgLiNMjbnioVg6k4rxjQ-WI

Translated by JBMA Osawa KAZUKO



WPIC直近の活動

- 今、航空業界は再び燃料変革に向けて、優れた触媒特質を持つプラチナに注目している。プラチナが触媒となる固体高分子形燃料電池は水素を燃料として発電し、航空機を動かすだけの出力と、航続距離と有効荷重も十分なシステム構築が実現できる。世界各国でクリーンエネルギーへの転換が進む中で、水素燃料セクターのPGM需要は、来年初めて3.11トン（10万オンス）を超えると予想されている。詳しくは「プラチナ豆知識「プラチナと共に空へ」（2022年10月26日）をご覧ください。

<https://platinuminvestment.com/about/60-seconds-in-platinum/2022/10/26>

免責事項: 本資料は情報提供に過ぎず、WPICの投資提案を意図するものではなく、また、そのように解釈されるべきでもありません。



(@wpicjapan)